

人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH (もおっ)

M → **も** **もったいない**
循環
他の生命を奪って得たものを使わ
せて頂く

O → **お** **おかげさま**
共生
人は一人では生きられない、環境
によって生かされている

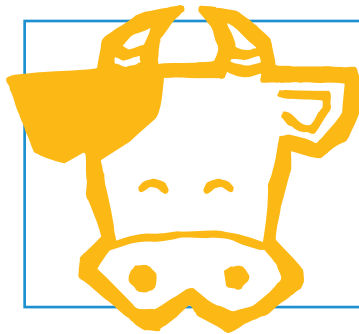
H → **ほ** **ほどほどに**
抑制
欲はほどほどに、良き環境を作り上
げるために

も う

M・O・H

通信

8号
2005
August



「M・O・H」のマーク = 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします



日野中山芋競べ祭り(2004.9.1)

目次

<特集>循環型社会にむけた
実践を探る

- 循環型社会の構築に向けて
鼎談/國松 善次&内藤 正明&森 健司・1~4
- 人とペットが癒される木立の中の宿
ペンションシーブ 浜田 博行さん・才知子さん・5~6
- 人生は絵を描くことと共に
嵐山ハイブリッド美術館 館長 榎本 義雅さん・7~8
- 有機的人間の踏ん張り方
子育て里山塾 塾長アシスタント 寺本 マコさん・9~10
- ここまで10年! 琵琶湖の伝統食と二人三脚
お土産処 至誠庵 店長 井上 裕子さん・11~12
- 山暮らし子育て日記
オノ ミユキ…………… 13~14
- 夏の庭
今関 信子…………… 15~16
- 投稿コーナー…………… 16
- 環境倫理学講座 Part.8
本田 祐志…………… 17~18
- 本の紹介…………… 18
- 循環型社会入門⑤
森 建司…………… 19~20
- 講演日記…………… 20
- 「人間学」を学ぼう その2
井上 昌幸…………… 21~22
- M・O・Hニュース…………… 22

表紙の言葉

私は高校生、フリーター、ニートを対象にした職業感熟成のセミナーを展開しています。「もったいない、おかげさま、ほどほどに」の考えを啓発していきたい。

藤田 暢彦 滋賀県 66歳

循環型社会にむけた実践を探る(1)

循環型社会の構築に向けて

國松 善次 滋賀県知事

内藤 正明 滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター センター長

森 建司 循環型社会システム研究所 代表

■知事公館

■2005年6月吉日



循環型社会の構築に向けて、私たち一人ひとりの意識改革

が問われています。従来の物質主義や、行政依存からの脱却

をはかり、「環境倫理」または「環境哲学」といった価値観を自身に宿すこと。その

ために今、何を為すべきなのか。また、な

ぜそうすべきなのか。これまでの社会で主流を占めてきた価値観が成立した過程を振り返りながら、お話し頂

きました。

循環型社会に向けて、今、為すべきこと

國松 循環型社会の構築がなぜ、今、必要かを考えることが、何を為すべきかにつながると思います。これまで我々は、欧米を中心とする先進国を手本に、豊かで便利な生活を追求してきました。ですがここに来て、あまりに人間中心であったため、自然破壊とともに、心の貧しさ、不安を自ら生みだしてしまつたのではないかと、反省すべき時が来たと思います。では、今後どうすべきかというと、自らの幸せの意味を模索する。つまり、もう一つの生き方を考えてみる必要があると思うのですが。

内藤 実はもう10年以上も前から国が行なっているアンケートで、『物の豊かさ』と『心の豊かさ』、どちらが大事ですかという問いに対して、『心』だと答える人の数が逆転して増え、その



「意識改革が重要」
森 代表

差がどんどん開いているんです。しかし、では心の豊かさは何ですかと聞かれたら、皆がはたと困るわけです。心の豊かさって何だろうと。それが当面の課題であろうと思いますね。そして、心の豊かさとは循環型社会のどこに接点があるのかということ、研究者として探ってみたいと考えています。

森 最近ですが、近畿経済産業局の中に、エネルギーと環境ビジネスの推進を目標としたNPOが発足しました。皆さん、新産業を指し集まつておられるんですが、ただほとんどの方が儲かる環境ビジネスを探しておられるんですね。MOHの会等を通じてお会いする人の中には、真剣に環境のことを考えている人も大勢おられますから、両者の哲学の違いを感じざるを得ない。経済の手段として環境ビジネスを考える人は、経済活動の哲学を持ったまま、環境活動をやるうとしていんです。環境問題に対する理解や哲学というのは本当にまちまちで、共生や抑制ということを自分自身の哲学としなければ、見え



タイ「革命的なビジョンを期待」
國松 知事

るものも見えてきません。今、一番大切なのは意識改革に焦点を絞った活動ではないかと思うのですが。

國松 何が環境問題を引き起こしているのか。問題の原点を共有しないと、同じ言葉を使っても意図する中味が違うということでは起こり得るでしょうね。私は「ありがたいもったいない・お役に立ちたい」と3匹のタイが大切だとよく言うのですが、これは日本を含む東アジアの気候風土の中で、もう一度「幸せ」という中身を考えようじゃないかという思いを込めています。日本の経済成長は、欧米に追いつけ追い越せからスタートしているんですね。しかし、ヨーロッパの人たちが考えたのは、赤道からかなり離れた自分たちの土地で、自然と闘いながら、人間が幸せになるための仕組みです。日本とは気候風土が大きく違うんです。日本を含む東アジアは緯度が低く、自然が豊かですから、その中で幸せを考えないと。日本で人間と自然の歴史は「征服」の関係ではないでしょ。共に生き、祈りと感謝、畏敬の念を捧げてきた。「いただきます」という言

葉も、自然の恵みをいただくという感謝の言葉です。そして、自分だけがいだきすぎてはいけなから「もったいない」と。自分は自然や人様に生かされている、「ありがたい」。だから自分自身も何かの「お役に立ちたい」と。そこに自分の幸せもあるのだという考え方ですね。ところが今は楽をしたい、ご馳走を食べたい、言いたいことを言いたいというタイばかりです。つまり人間、特に自分中心の仕組みを持ち込んだ結果だと思えます。私はこれは養殖のタイで、天然のタイはやはり先の3匹だと、生意気かもしませんがそう思います。

風土に根ざし、人と密に交わる新しい社会を

森 我がが子どもの頃は家で鶏を飼っていました。世話は大抵子どもの仕事で、たまにお客様があると、父親が一羽ひねって、その晩は焼き焼きになるわけです。これはもう、「いただきます」という言葉が自然に出てきます。あの気持ちはスーパーで買った鶏肉しか知らない世代には理解できないでしょうね。

國松 それで私が気になるのは「身土不二」という言葉です。身体と土つまり風土は一つだという意味です。生き物は自分の手足を動かして、移動できる範囲の中で手に入る食べ物を食べ、その中で自分を守ってきた。何万年という間、この繰り返しで遺伝子を磨き、進化してきたわけです。ところが文明の発達で海に向こう、地球の反対側の食材まで、何でもどんな手に入るようになりましたね。

その途端、海山野の幸、旬の幸を大切にしている日本の食文化が衰退しました。最近の親を殺す、子どもを殺すといった事件は、これまで日本の歴史に無かったことです。なぜそうなったのか。それは、身土不二の中で進化してきたものを無視したことからよって、矛盾が生じてきているからではないかと思うのですが。

森 身土不二を無視したのは、産業界も同様と言えるでしょうね。日本の製造業は「QCD」(Qは品質保証のクオリティ、Cはコストダウン、Dはデリバリー)供給を昼夜問わず保証する)の競争に明け暮れ、グローバル経済もその賜物と言えませんが、結果として人が排除されることになってしまった。無人工場では、設備投資は必要にして、労働の対価を払わずして利益を得ているのですから、これはもう景気が良くなるわけはありません。そこで私が思うのは、もう一度、濃密な人間関係を構築する新しいビジネスです。例えばスーパーの跡地を利用して、消費者と商店、商品を供給

するメーカーの三つで新しいビジネスモデルを作るべきだと思えます。高齢者の多い地域では配達や出前であるとか、ひと昔前の個人商店ですよね。市場は世界に開かれていっているんだというグローバルイズムとは逆の発想です。

内藤 グローバル経済の問題はしきりに指摘されています。私は、いずれ原点に戻るであろうと思えますが、その時に止むを得ずなのか、そうしたいのか、そうすべきという倫理観からなのか、三つの側面から考えられると思います。理屈で言うと循環型社会というのは、輪が閉じていて一定量が持続的に回っているという状況です。ここによそから何かを持ってきたら循環にはならない。日本がアメリカから大量に物資を輸入しながら循環型社会と云うのは理屈に合わないんです。本当に循環と言うならアメリカに戻すことができればそれは循環ですけれども、しかしそんな広大な輪を作ることは物理的に可能ではない。循環で輪を閉じると言ったら一定の規模が否応なしに出てくるでしょう。グローバル経済というのは、そういう点から既に破綻しているケースが見られます。また、グローバル経済によって生じる格差、企業間でも勝ち組だとか負け組だとか、あらゆるスケールの格差が社会を不安定にしているということも、一つの危機要素です。



「循環型社会のモデル像を作りましょう」
内藤 センター長

そういふ点から既に破綻しているケースが見られます。また、グローバル経済によって生じる格差、企業間でも勝ち組だとか負け組だとか、あらゆるスケールの格差が社会を不安定にしているということも、一つの危機要素です。



循環型社会の実像を、 描いて見せる

森 そのために一つだけ方法があると思うんです。それは消費者がQCDに対する欲望を捨てることです。品質保証してくれと言わない。例えば賞味期限なんか印刷された日付に頼らないで、自分の舌で判断する。家電製品も近所の電器店で買えば若干高いかもしれないけれど、大型店で買って故障したら大阪の業者が修理に来て、その分の代金を請求されたら、むしろ割高じゃないかと。極端かもしれませんが、そういうことに消費者が慣れないといけない。QCDを当たり前としない倫理ですよ。若い人も今のこのままの環境でいけば、自分たちの未来は無いのだと、そういうことを認識したら、目覚めてやってくれると思うんですが。実はそこまでつきり言う必要がある時に来たんじゃないでしょうか。

國松 森さんは、企業がQCDを追求することについて、危惧なり構造的な問題を示唆されるわけですが、そうすると企業は、「CSR」(コーポレート・ソーシャル・レスポンス)ピリティーII企業の社会的責任、または社会に対する責任」と並行して考えているんだと、多分言うでしょね。しかし、このままでは問題があるということ、企業も消費者も気づいていると思うんです。わかっているんだけど、構造として日常に根つきすぎている。それを一気に変えようというのは、現実的ではない部分もありますので、とりあえず気づいたモノだけでも実践するということが大切だと思うのですが。

内藤 これまで10年、20年、同じような対策をやってきてほとんど進展がありませんでした。ですから最近は大きく戦略を変えようとしています。人間を動かすには後ろから押すか、前から引つ張るかなんです。引つ張るにはエサがいりますから、私は「持続可能な社会というのは、こういう社会なんですよ」という姿を具体的に描いて見せたいと思うんです。もちろん、事前に知事の了解を得た上でです。多分、意外に「そういうことを言ったのか、それなら面白いんじゃないか」とおっしゃると思うんですが。

森 姿が見えれば、とるべき行動も見えますね。

内藤 そうです。しかしそれで実際に作業を始めると、条例や法律、社会の仕組みに行き当たることがわかりました。ですから、「わかった。それを突破しよう」と言っていただけける行政、政治の力を、後押しの方にできればと思います。

森 新産業を考えるにしても、その世界では何をやってはいけないのかということが見えてこない、難しいんです。内藤先生にはぜひ、研究所から二歩外に踏み出していたいて、経済界や消費者を先導するシンクタンクの役割を果たしていただきたいですね。経済界でも勉強会を作ろうという計画がありますが、そこに財布のヒモを握っている消費者の参加がなければ駄目だと思っんです。理想としては産官学民の研究会を開いて、経済界、消費者の両方が変わるような、何か大きな県民運動の基礎となる組織が作れたらと思います。

國松 基準を握っているのは消費者

です。消費者の皆さんが学習した効果のある構造へと組み立て直すことで、世の中が変わるんだということはハッキリしています。学習した効果とは、言い換えれば意識改革です。それをまず、消費者が学んだ上で行動を起こせば、絶対強いものになるだろうし、逆にそれが無ければ、何をしても弱いものになってしまうでしょうね。

ドラスティックなビジョンを サポートするための 下地づくり

森 倫理というのは、自分の問題なんです。言葉にして人を引つ張るんじやなくて、まず自らが変わる。自らの行動をまわりの人が見て、一緒にできてくれるという土台が必要なんです。そう言いながら、私自身あまり変われなくて、自分を叱咤しているのですが。

内藤 私も実は同じ思いです。言い訳をさせてもらいますと、変わろうとすると、物凄く難しいことをしなくてはならないように、社会が今、なっているんです。データを見ますと、車はどれも高性能、家電製品はどれも年々性能が上がっているのに、なぜかCO₂の排出量は増えているし、エネルギーの消費量も増えているわけです。何を言っているのかというと、これはもう構造なんですね。例えば世帯数が増えたり人口が増えたりするのに世帯数が増えているから、車の保有台数や家電製品の所有数が増えるんです。一台一台の性能のことを言っても限界があります。構造自体を変えるのは日本全体では無理で



すから、どこかに特区を設けて、それを見せて「これでも嫌ですか？」という問い方しないと、構造の変革はなかなか難しいでしょうね。

森 それを実現すると、経済界にマインナスを与えることになるのでしょうか？

内藤 とりあえずはあまりプラスにはなりません。しかし、構造を変えても経済界にとって利益が生まれるように転換する時が、目の前に来ていると思います。どこかでプラスに転換しなければ、持続可能な社会は土台実現しませんから。その予測もきちっとしたいと思っていますが。

森 私は原始社会とまでは言わなくても、少なくとも何十年前の経済のレベルまで立ち返らなくてはいけないのかな、と想像していました。これは辛いなあ、と思っていたんですが。

内藤 ちょっと思い切れば、むしろエコビジネスって儲かる分野になると思います。

森 その姿を描いていただいて、県民の皆さんにわかってもらえれば、大きなパワーになりますね。

内藤 そう思います。なかなか難しいことですが、描いたものが当たらなければえらいことになりますし。(笑)

國松 具体的なビジョンを示すと考えた場合、一つは全体としての仕組みと、もう一つは個々の企業の立場を考えて、新産業の仕組みを示すような二面が必要だと思えます。様々なケースがありますから、すべてを示すことはできなくても、何か象徴的なこととして、全体像と個々のケースの整合性を示していただければと期待しています。それと、かなりシヨッキングな

ビジョンにならないと、示したことになるかとも思うのですが。

内藤 それは放っておいてもシヨッキングなことになりますね。

國松 一種の革命的な行為になりますから。それまでに、今、気づいた人が声を大にするというアクション、そして他の人の共鳴を呼ぶムーブメントを仕掛けていく必要があると思います。その上で、ドラステックにビジョンを示すということになると思いますね。

森 未来を描く作業ですね。これはぜひ県で取り組んでいただきたい。経済界や消費者も巻き込んでディスカッションしながら、できれば二年程度を目安にして、一つの提言としてまとめられないでしょうか。できるだけ急がないといけないと思えます。

内藤 そうです。時間を区切ったほうがいいですね。二年あれば、ある程度の判断材料は作れます。

國松 僕はデザインで結構ですから、環境問題に合わせて教育福祉といった切り口も欲しいで

すね。65歳以上が人口の25%を占める世の中なんて、人類はかつて一度も経験したことがないんですから。何の準備もできていないのが現状だと思います。

内藤 私がいつも、環境・社会・経済と大きく三つの柱があると言っているのは、実はそれらの根っこは一つだからなんです。根っここの部分さえちゃんとしていれば、当然その一側面としての環境も良くなるはずなんです。

森 本日はどうもありがとうございます。



「未来にむけた提言をお楽しみに」頼もしい産官学のトップたち

滋賀県知事 國松善次

●くにまつよしつぐ

〈経歴〉滋賀県知事。1938年、滋賀県栗東市生まれ。中央大学法学部卒業。大阪府庁を経て1976年滋賀県庁に入庁。教育委員会事務局文化部長、健康福祉部長、総務部長などを務め、1998年3月退職。同年7月、滋賀県知事選挙で初当選。現在2期目。「自然と人間がともに輝くモデル創造立県・滋賀」を指してチャレンジする。

内藤 正明

●ないとう まさあき

〈経歴〉1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業、1969年京都大学工学博士。1995年京都大学工学研究科教授、2002年京都大学大学院地球環境学堂長(併任)〈現職〉(NPO)循環共生社会システム研究所代表理事、佛教大学社会学部教授〈専門〉環境システム学
〈最近の関心〉循環システム、持続可能社会の概念の確立と仕組みの提案
〈主な仕事〉NPO研究所によって循環共生社会または自然共生型社会の実現に向けた研究と実践活動、および市民技術の形成

森 建司

●もりけんじ

〈経歴〉1936年、滋賀生まれ。滋賀県立浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長、滋賀県教育委員会委員など
〈著書〉もったいない・おかげさま・ほどほどに「循環型社会入門」新風舎

循環型社会にむけた実践を探る(1)

人とペットが癒される木立の中の宿

ペンション

ペンション シープ
オーナー 浜田 博行・才知子

左が才知子さん、中央は健渡くん(6歳)、そして博行氏。

循環型社会のキーマンは、自立した生き方を実践する“人”だろう。そこで今回は生き方と暮らし方を追ってみたい。まずはペンションシープのオーナー夫妻。トランペットとペンションとペットを見事に融合させた先駆者だ。その勇気と堅実な信念が成功の鍵となる。

動物が好き、音楽が好き、好きを二人でカタチにしよう

今津町の静かな景色の中に、浜田博行さん・才知子さん夫妻が経営するペンションシープはある。近くに国道161号バイパスが開通してアクセスは良くなったが、その喧騒も周りの木立が遮ってくれる。この場所を選ぶに際しては、吟味に吟味を重ねた。

「24時間、音が出せる環境であること、ペットのワンちゃんやネコちゃんも一緒に泊まってもらえること、気持ちの

上で健康的に過ごせる環境にこだわりました」

シープはペット同伴の宿であり、トランペットとピアノをそれぞれ趣味とする博行さん、才知子さんが、同じように音楽を愛する人に、気兼ねなく訪れてもらえることをコンセプトにした宿だ。オープンは1990年。それまでに約5年の準備期間があった。資金を貯める事はもちろん、場所選びにも奔走した。

「ちょっと不便で、近所に家がなかなか建ちそうにないところ。普通とは逆の発想ですね」

大阪市生まれの博行さんと池田市生まれの才知子さん。博行さんは広告代理店のプランナー、才知子さんはメーカーの秘書室勤務と異なる世界の住人だった。ただ、二人とも大の動物好きで、デートはお互いのペット同伴、一緒に行動することが二人にとっては自然だった。しかし、当時は

ペットブームの到来前。お店に入るにも、旅行をするにも、ペットはシャットアウトされてしまった。なら二人で、ペット同伴のペンションをやるう、という夢が生まれ、その夢は五年の歳月をかけて具体的な人生設計へと成長した。それでも周囲は大反対だった。

「雲をつかむような話だと言われました。現実から逃避していると思われるのが嫌で、誰の援助も受けずに、自分たちの力でできることから始めようと決めました」

土地を購入し、建物を建てるのに銀行から借金をした。何が何でも返さなくてはいけない、やるのは自分たちしかない、と、性根をすえて現実に向かったことが、二人にとってプラスに働いた。シープのオープンまで、博行さんは今津から大阪の勤務先に通い、才知子さんも近所のピアノ教室で講師として職を得た。

タウンページの一行広告から始まった、ペット同伴の宿

いよいよ、待望のオープン。インターネットも無い時代、タウンページに掲載



看板犬のプリンちゃん

載した「ワンちゃん、ネコちゃんも大丈夫！」の一行が、唯一アピールの方法だった。当初は箱館山へのスキー客、琵琶湖への湖水浴客がほとんどで、ペット同伴のお客様は年間二割程度に留まった。京阪神の地元タウン誌に広告を掲載し、ペットショップに名刺を置いてもらうなど、地道な営業努力と口コミで、じわじわとシープの名前が愛犬家と愛猫家に広がり、オープンから四年目にして、ペット同伴のお客様が五割を占めるようになった。

「ペット同伴のお客様には、宿泊のワンちゃん、ネコちゃんのお名前をお聞きして、そうでないお客様には、ペット同伴のお客様がられることを、必ずお電話でお伝えしました」

それから10年以上が経過し、才知子さんは時代の流れを、同伴されるワンちゃんを感じるといふ。

「当初はマルチーズのような小型犬が多くて、それからハスキー犬のブームがあつて、ゴールデンレトリバー、ラブラドルといった大型犬が多かったですね。今はもう一度、ミニチュアダックスのような小型犬が多いですね」



ジャズライブも定期的開催



道案内の標識も看板もない、まさに隠れ家



モバイルホームの外観、北欧を思わせる

ペットと一緒に休める

手作りのドッグラン、個性豊かなスタッフ、自分たちがめざすスタンス

2000年には、夫妻待望のドッグランが完成した。七、八年前に訪れたニューヨークの街角で、目にした光景がきつかけだった。

「大都会の真ん中であつても、そこではペット同士のびのびと交流をしている。そういうスペースをお客様にも体験していただきたい」

シープのドッグランは、夫妻の手作りで、少し小高くなった部分がある。勾配でペットの運動量を増やすため？と思いきや、土を削るのに費用がかかるので、そのままの地形を生かしたとのこと。それがまた愛嬌のあるスペースとなっている。

「自分たちのペースでシープを成長させていきたい。新規のお客様を増やすのも大切かもしれないけれど、心のこもったサービスの質を深めていきたいですね」

その思いは、スタッフのユニフォームにも現れている。レギュラースタイルはTシャツにスカート。夏には女性スタッフはミニ浴衣となり、クリスマスには男女スタッフともサンタクローススタイル、年末年始にかけては、女性はニュー着物、男性は袴ルックと趣向に富んでいる。トランペット奏者としてステージに立つこともしばしば、博行さんのパフォーマンスセンスが発揮されているようだ。

「スタッフ自身のモチベーションも上げるみたいですね。それぞれの年齢らしさ、キャラクターのいいところが出ていて、スタッフに会うのを楽しみに来られるお客様も多いです」

リピーターのお客様も多く、前回同日に宿泊したお客様同士が、偶然にもまた同じ日に予約をされることもあった。家族が田舎への帰省日を合わせるように、不思議な縁が生まれているのかもしれない。

「経営が順調になったからといって、成功ではないと思うんです。安心してしまつと次を考えなくなるから、日々反省で、いいことはどんどん取り入れていきたいですね」

ここに来て、まだ一度も安心したことはないという才知子さん。緊張感と向上心を持続させる日々の中、取材当日もお客様を迎える準備が始められた。



ドッグラン、アジアンカフェ風のテラスで食事もできる。

浜田博行 波田才知子

●はまだひろゆきさん同様博行さんは現在、音楽家としても活動中。シープと並行して大津市真野にて『Jazz Live e place』を営む。また、シープ敷地内でワンニャン輸入雑貨店『プリンスマー』もオープンした。ドッグランは2001年に当初の120坪から140坪に広げられ、ガーデンデザイナースペースが設けられている。宿泊料金は1泊2食付1名12,075円(税込み)から。ほかにもモバイルホームもあり、こちらは13,125円から。

●ペンションシープ所在地／滋賀県高島市今津町桂718-7 〒520-1602
http://www.5a.biglobe.ne.jp/~p-sheep/

循環型社会にむけた実践を探る(2) 人生は絵を描くことと共に

嵐山ハイブリッド美術館
館長 榎本 義雅



嵐山駅の隣に立地。廃屋同然だったなんて信じられない。



日本家屋の趣を残した室内。鮮烈な色が印象的な絵がところ狭しと...

少年時代に傷ついた心を癒してくれた絵画。家庭を持ち、妻や子や弟と絵筆で心をついにした。そして、友人のかなでる音楽を媒体に、周囲の人たちと共通の空間を楽しむ。とてもハイブリッドな家族が嵐山で活躍している。

絵を描くことで癒された少年時代

阪急嵐山駅を降りてすぐの場所に、ハイブリッド美術館はある。館には榎本義雅さん(画号雅龍太)と弟・瑛次さんの作品、そして義雅さんの息子、凌君(画号雅龍山)の作品が展示されている。

ハイブリッドの名前は、日本語で「混雑種」を意味する。「いつか世界はポータレスな時代を迎えると思うんです。その時に人間は、いろいろな民族のDNAを持っていた方が、遅く生き残れるんじゃないかと思つて、ハイブリッドと名づけました」



奄美のころの奥さん恵子さんと凌君。

義雅さんとアートの出会いは、「昆虫観察が僕の原点だったと思います。ほうつておけば何時間でも、昆虫の姿かたちに見入っているような子どもでしたから」。小さな表面積に規則正しい模様があり、器官がある。それをそのまま描きたいと思つた。義雅さんは10歳の頃、デッサン教室に通い始める。

「決して家が裕福だった訳ではありません。僕は昆虫少年であり、いじめられっ子でもありましたから、子どもながらに背水の陣だと感じていました。闘わなければ自分の人生は絶望的だと思つたし、そういう極限の状態を支えてくれたのが、絵を描くという行為であったと思います」

上手い、下手は二の次。気持ちのある限り、描き続けていこう

しかし、絵を描くことが好きだった少年は、いつしかカワサキの750ccのバイクに心を奪われる。再び絵を描くことに目覚めたのは、それから数年後のことだった。

「17歳の時に、たまたま古本屋の店先でゴッホの画集が目にとまりました。ゴッホ独特のうねるような筆遣いが、まるで生き物のように自分に迫ってきて、何かに弾かれたように、自分も



バイオリンとピアノが奏でられるひと時、第2木曜日午後7時から、入館料300円。

絵を描くことを思い出したんです」
その足で画材屋に向かい、そこから今日に至るまで義雅さんの創作活動は続いている。「最終的にたとえ何百年、自分が絵を描き続けたところで、ルネッサンス期の技術力には到底至らないと感じて、筆を折リかけたことでもあります」

悶々とする日々の中、人はなぜ夢と希望を失うのか？ 自身に問い続けた。

「そこから考え出したことは、マイナス面ばかり追い求めて自分を責めるより、今自分に何が出来るかということが大切であり、何もしないで人生を諦めることは、生きながらにして

死を意味するということです。自分も絵を描きたいという思いがある限り、上手い下手をとやかく言う前に、あきらめずに描き続けたいいんだと考えることができたんです」

その後、なぜ人間は国をあげて戦争をし、多くの人たちが犠牲になるのかという疑問につき当たり、人が争うことの悲劇、戦争というテーマが浮かんできた。自身に忠実に1000号のキャンバスに向かい、丸三年の歳月をかけて『ヒストリー20世紀の悲劇』と名づけた作品が完成した。その作品は第44回京展に入選し、義雅さんの創作活動は勢いに乗った。

そんな中、日本画家・田中一村（1908～1977）の作品に出会った。異端の画家とも称される一村は、東京美術学校に同期で入学した、東山魁夷らとともに将来を嘱望されるが、不遇の時代が続き、遂には日本画壇と決別。スケッチ旅行で訪れた、本土復帰間もない奄美へ移住し、死ぬまで奄美の風土と自然を描き続けた。一村の画を通じて奄美の美しさに魅せられた義雅さんは、妻・恵子さんとともに奄美へ渡り、数年を過ごす。その間、凌君を授かった。

親子の、兄弟の、絆を深める美術館

義雅さんには13歳年の離れた弟・瑛次さんがいる。父親を早くに亡くし、義雅さんが父親代わりとなってきた。その瑛次さんも、義雅さんと同じ画家になりたいと思うようになり、2001年、兄弟で初めての展覧会を

開き、2人の作品を置ける場所が欲しいと考えるようになった。子どもの頃から好きだった嵐山で、たまたま朽ちかけた民家を見つけ、借り受けることができた。仕事の傍ら一年かけて修繕し、ようやくハイブリッド美術館が誕生した。

館内は町家のような雰囲気だ。畳の間を囲むように三人の作品が並べられ、一台のピアノが置かれている。このスペースを利用して、最近ではバイオリンとピアノのミニコンサートも開かれるようになった。ハイブリッドの名にふさわしく、様々な人の様々な自己表現が、この小さな美術館に混在しているのだ。

部屋の一角に、渡月橋近くに架かる小さな橋を描いた凌君の作品があった。まだ制作途中でこれから色をつけるらしい。隣にあるのは橋を描く凌君をモチーフにした義雅さんの作品で、風景を追う凌君の目を、義雅さんの目が追うという面白い作品だ。

「子どもの時期はあつという間にすぎますから、九歳の凌を、絵の中にとどめておきたいという親の思いですね」



雅龍山による初々しいスケッチ

義雅さんが、今一番心惹かれるのはモンゴルの遊牧民だという。

「チンギス・ハンに代表される勇猛果敢なイメージとともに、非常に素朴な民族という印象も受けますよね。強さというのは、反面（良い意味で）弱さを含んでいると思うんです。例えば女性にしても、遅しくもあり、華奢で繊細でもあるでしょ。そういう二面的な要素を描きたいですね」
いつか、モンゴルの平原に立つた義雅さんと凌君の間に、どんな言葉が交わされるのだろうか。



左から義雅氏、恵子さん、凌君。手にしているのが親子競演の最新作。

榎本義雅

●えのもとよしまさ 1959年、京都市に生まれる。子どもの頃から絵描きになりたいという夢を持ち続け、10代後半からは、ルネッサンス期の諸作品と同時期に描かれたアジアの水墨画を研究課題に精力的に創作活動に取り組み。インド・スリランカへの写生旅行や奄美大島への移住経験などを経て、嵐山へ。現在も職業を持ちながら画家としての活動に励んでいる。

●ハイブリッド美術館Ⅱ所在地／京都府京都市西京区嵐山東川町3-1 〒616-0002

循環型社会にむけた実践を探る(3)

オーガニック
有機的人間の踏ん張り方

新旭里山体験交流館「もりっこ」

子育て里山塾 塾長アシスタント 寺本 マコ

時代の先端を駆けたあのころ。歩みを止めてみると、むなしさが心をよぎる。裕福な生活ってなんだっただんならう？と、思うときもある。だけど世の中すてたものじゃない。「いつちよ、やったるかい」の気合があれば収入半減支出半分でも、やりがい十分。”よそ者”が”宝者”になる日は近い。

ガーデンコーディネーターとして奔走する日々

一級造園施工管理技士、一級造園技士の国家資格を持ち、ガーデンコーディネーターとして活躍する寺本マコさんに、大きなチャンスが巡ってきたのは1990年のことだった。大阪で開催される『国際花と緑の博覧会』の、パビリオンの一つ、サントリ館の現場代理人として、植栽工事から管理



「木も獣も人も、土がいいから生きられるのよ」かわいいスタイルで畑に出ます。

までを任せられることになったのだ。「周囲からも評価され、キャリアウーマンとして認められるほどに、母親であることを免除された時期でしたね」

その頃、彼女は離婚して三人の子を養うシングルマザーでもあった。男親にもひけをとらない収入と、順調なキャリア。しかし、花博という大舞台を終えた後、達成感の反動のように深い喪失感に見舞われた。

「このままではマズイと思うて、もう一度自分を奮い立たせるために、アメリカ行きを決めました」

新天地として選んだアメリカ・カリフォルニアについては、ガーデンコーディネーターとして以前から興味があった。各一般家庭に散水装置があり、日本では遅れがちだった「管理」の部分が、当然のこととして根付いていた。カリフォルニアの雄大な自然の中、アウ

トドライフは自然の中で子育ての基本を体得する、人が暮らす原点だと知った。それが家族の形態について考え直すきっかけを彼女に与えてくれた。

「向こうの知人から、パートタイムで仕事をする母親はいても、あなたのように母親業をパートタイムでやる女性はいない。あなたは三流以下の人間だと言われました」



苗をうえるのも、リズムカルにホイ・ホイ・ホイ。

「循環、継続」を自身の仕事に組み入れた

自分をはじめ、自分の周囲も間違っていたと気づいた彼女は、日本に帰国後、親子で田舎暮らしを決意する。それまで仕事で何度か訪れたことのある山梨を田舎暮らしの拠点に選び、並行してガーデンコーディネーターの仕事も続けた。

1998年、大阪球場が閉鎖され、その跡地が「なんばパークス」という商業施設に生まれ変わることになった。屋上利用法として緑化案が浮上し、彼女は集客型・循環型のオーナー制貸菜園の実施計画を提案した。先にアメリカで見た、管理して循環させる方式を持ち込みたいと思った。

「貸菜園のオーナーとして、種苗や農機具等を手がける企業を引っ張ってやること。屋上緑化しても続かなければ意味がない。続けるためには収益性と集客性を図れる企業を巻き込むべきと考えたんです」

結果として、企業をオーナーにすることは実現しなかったが、この過程



子どもたちが一輪車に楽書きをしてくれました。



拠点の「もりっ子」室内の作業場は広い。森の収穫情報も掲示されている。

で一つの出会いがあった。彼女は貸菜園の土壌にEM(※注)を導入しようと考えていたが、その進展具合を、EM技術の権威である琉球大学の比嘉照夫教授が、新旭町町長(現高島市市長)の海東英和氏と一緒に視察に来てくれたのだ。

初めての土地を選んだ理由

とにかく現地を見ようと足を運び、土壌の状態を確認した。どうにもできない場合もあるが、花菖蒲園は

改良が可能だとわかった。引き受けるからには地元への転居が必要になる。また、金銭面もこれまでの民間の仕事のようにはいかない。それでも決心したのは、町長をはじめ、役場の職員の人たちの人柄によるところが大きかった。

「海東氏は、湖西地域は県内でも比較的転入者の多い土地で、『よそ者』が地元の人々にとって刺激となり、ひいては地域の活性化につながるための仕組みづくりができるのではないかと、という意見をお持ちで、

共感できる部分が大きかった。役場の人たちも、遠いところを大変やね、こころへんは雪が多いから気をつけてと、その気遣いが嬉しかったんですね」

お金の代わりに人が私を支えてくれる

彼女が新旭町にやって来て二年が経った。花菖蒲園の土壌改良にはまだ時間がかかる。しかし彼女が講師となつて開講したアイリスオーガニック農園スクールでは、地元の主婦がオーガニック農業、そしてオーガニックスタイルともいべき循環型の暮らしのハウツーを学び、地域にその輪を広げつつある。

今年三月、彼女は花菖蒲園の仕事に一旦終止符を打ち、現在は新旭里山体験交流館「もりっ子」を拠点に、子育て里山塾の活動を続けている。ガーデンコーデイネターとして出会うたオーガニックスタイルを、生き方のスタイルに選んだのだ。

彼女は子どもたち、また大人たち

に、人間が暮らすこと、食べることの延長線上に農業問題や環境問題があることを、日常の具体的な活動で、実感してもらうことを大切にしている。

「農業や環境を学ぶための取っ掛かりをどう設定してあげるかですよね。例えば、田んぼを勉強するとすれば、裸足で昔ながらの田植えを経験させるけれども、入り口として極端ではないかと思う。それより、今は田植え機やコンバインもあって、他の職業に就いていても農業はできるんだ、ということを見せてあげないといけない。日常に近く近い場所、近い事柄を入り口にしてこそ、自分とのつながりを実感できると思う」

この地で『よそ者』として踏ん張る彼女だからこそ、言えることがある。

「昔の自分と比べれば、今はお金が入らない生活。でも、お金の代わりに人が私を支えてくれるから、そう困ったことにはならない。新しい世界に飛び込んでも、人は生き生きと暮らすことができる。そういう生き方も、本人の勇気一つで選択できる」



Mako

これは、環境のことを気にしつつも、これまでの暮らし方から脱し切れずにいる人への、彼女からのメッセージでもある。

※注 EMは有用微生物群の英語名「Effective Micro-organisms」の頭文字をとった造語。形態は黒や茶の液状で、液中に複数の微生物を共生させた微生物資材。文出の琉球大学農学部比嘉照夫教授により開発され、当初は農業分野向けの土壌改良材として、現在は国内外で建築・医療・教育・福祉等の分野で幅広く利用されている。



「プリンセス・ダイアナ」初めて咲いたバラ一輪。

● てももと まこ 大阪府生まれ。一級造園施工管理技士、一級造園技能士。ガーデンコーデイネター歴20年。マレーシア滞在中に花の魅力につかれ、帰国後、大手造園会社に勤務。取引先であった東京ディスプレイの植栽課と仕事をしながら、花の開発、施工管理を徹底して学ぶ。2003年、新旭町へ転居。現在、同町内の里山体験交流館「もりっ子」にて子育て里山塾を担当。

● 新旭里山体験交流館「もりっ子」所在地／滋賀県高島市新旭町饗庭3106-1 TEL 074-015311

TEL&FAX 074-0-257-7582

循環型社会にむけた実践を探る(4)

ここまで10年! 琵琶湖の伝統食と二人三脚

お土産処 至誠庵
店長 井上 裕子

観光客でにぎわう店頭。日本でも珍しい3本の葉をもつ「さんこの松」がある。

京都生まれの嫁が「ふなずし」を姑に教わり、「ふなずしパイ」に変身させて観光客をひきつける。瀬田川と月が美しい石山寺で元氣な嫁を発見した。地場産の湖魚にこだわり、自家製手作りの「おばあちゃんの味を受け継ぐ」。

ふなずしの、 何か新しい食べ方は？

石山寺の門前で、自家製ふなずしや湖魚佃煮を商う至誠庵。店を切り盛りするのは、この家の嫁である井上裕子さんだ。

「琵琶湖の漁師だった舅の名、誠六と、夫の名、誠の字を屋号にしました。真心を尽くすということですね」
数年前に他界した夫・誠さんとの結婚が決まったとき、姑に生まれて初めてふなずしを食べさせられた。

「姑が、ふなずしを口にした私を見て、その顔やったら大丈夫やな、と言っただんです。どういう意味で言ったのか、当時はよくわかりませんでしたね」
京都で生まれ、父親の仕事の都合で九州、神戸と移り住みながら育った裕子さん。過去を振り返ってみても、ふなずしのような食べ物には出会ったことがなかった。

時には、食べものではないと酷評され、時には、高級輸入食材のブルーチーズにも似た、と絶賛される不思議な伝統食……。特に若い世代には、ふなずしと聞いただけで毛嫌いする人も多い。また、周知のように、近年では原料となるごろふなが激減し、高価な一品となっているため、裕子さんは「不憫にも似た思いに駆られ、新たなふなずしの提案方法を試みた。」

姑の料理からヒントを得た 『ふなずしパイ』

「姑が漬かり具合をみるために、ふなずしのご飯をデバッグがわりにして、カナッペをよく作ってくれたんです。それがとても食べやすかったのと、欧米では酸味のあるタイプのクッキーも人気だと聞いて、パイにしてみました。どうだろうと思いつきました」

パイ生地の上にふなずしのご飯を薄く広げ、小さくカットしたふなずしをトッピングしてカリカリに焼き上げる。ふなずしの匂いはまったくしないが、よく噛みしめるうちに、フワッと口の中に酸味が漂う。裕子さんが試行錯誤を繰り返して出来上がった「ふなずしパイ」は、2004年のお正月から販売が開始された。



「横浜から友人を訪ねてきました。ここは美しいですね」



「卵の詰まったのがおいしいの」仕込みはまだまだ続く。

ずしの良さを一番引き出してくれているかな、と思うんですけど」

仕事、子育て、地元仲間を支えられながら

裕子さんの仕事は、もちろんそれだけではない。旬の湖魚やエビ、シジミを、それぞれ生姜や山椒煮など違う味付けで炊き上げる。添加物は一切使用しないので、どの商品も持ち直しはしない。ふなずしの桶の世話も待っている。忙しい裕子さんを、6年生と4年生になる二人の息子さんが、よく手伝ってくれるそうだ。

「大きくなったら、兄弟でこの店をやるんだと言ってますから、それまで琵琶湖の伝統の味を守らなくては、と思いますね」

早くに父を失った息子たち。それ以前にも、母である裕子さんが乳がんで手術入院するなど、人の生死について考えるのが、他の子どもたちより早かったのかもしれない。それが気掛かりでもあった裕子さんを支えてくれたのが、石山寺はじめ、地元石山観光協会の人々であった。

「嫁いだ時は、ただただこんな景色



おしゃれに変身した“ふなずしパイ”。パリッと香ばしい、おやつやワインのあてにぴったり



ふなずしに最適な、琵琶湖産のごろ鮒を塩漬けに。



琵琶湖産のえびを佃煮にしている。子鮎やもろこも味わえる。

のいい所で、毎日を過ごせるなんて幸せだな、としか思っていないんですけど、地域ぐるみで子育てを応援してもらって、今は本当にここがホームグラウンドという感じですね。だから、その時の恩返しをしたいという思いで毎日ががんばっています」

旅行者と琵琶湖の伝統食の出会いを取り持つ

裕子さんの毎日は、多くの旅行者と触れ合う毎日でもある。旅行者と、琵琶湖の伝統食の出会いを取り持つのが、店先に立つ裕子さんの大切な役割なのかもしれない。

取材当日も、観光ガイドブックを片手に、横浜から夫婦で至誠庵を訪れたお客様が、お土産としてふなずしを購入されたが、「そのお方はふなずしは初めてでいらしゃいますか？」という裕子さんの声が店頭から聞こえてきた。

電話やネット注文、店頭を訪れるお客様の中には、ピーターが多く、たとえ声だけしか知らないお客様であっても、郵便の振替用紙に、何か一筆メッセージが添えられているらしい。

「これも一期一会ですね」最近になって裕子さんは、琵琶湖の伝統食を担う役割、という意識に目覚めたと言う。

「古いものと新しいものの接点を見つけるのは難しいですね。でも、姑から教わったことと、店先でお客様から聞いたことと、ふなずしパイのヒントもあったと思うんです。やっぱり食べて欲しい、知って欲しいという気持ちが一番大切なかもしれない」

姑が口にした「その顔やったら大丈夫」の意味も、裕子さんの中で、深みを増しているようだ。



井上裕子

この企画は、京都府に生まれ、結婚を機に家業の「手つなぐふなずし」湖魚つくた煮(うなぎ)の製造・販売を手伝い、現在は店長としてすべてを切り盛りする。ふなずしの奥深い味わいをもっと多くの層に食べてもらえようという思いで「ふなずしパイ」は、マスコミでも紹介され、人気を呼んでいる。

●至誠庵Ⅱ所在地／滋賀県大津市石山寺 1丁目3番30号 TEL:0520-0861 HP: <http://www.shiseian.com/>

オノユキの

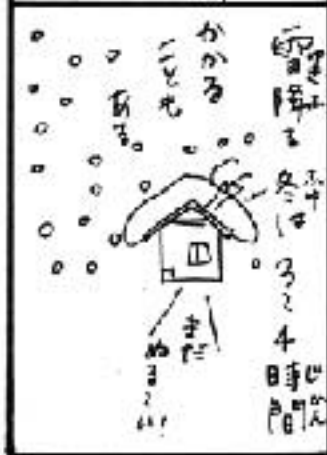
山暮らし子育て日記

作:オノユキ



スタート





「プロフィール」 オノミユキ
 本名 加藤 みゆき。一九九七年に
 志賀町から朽木村(現高島市朽木)
 に移住。保老朽木いさものふれあいの
 里センターで指導員を5年務め、
 出産を機に退職。
 朽木の自然・行香・食の人の人間
 なさをマンガにし、各冊の本にして出版
 朽木新幹線道の駅などで販売中。
 売上げの一部は、アフリカのタンザニアへ
 寄付している。
 滋賀県高島市朽木 在住。

夏の庭

今関 信子



イラスト：佐々木洋一

私が幼い日に暮らした家には、実のなる木が植えられ、季節ごとに花が咲く庭があった。その庭で、蛋白源として鶏が、番犬として犬が、飼われていた。近所の子どもがひとかたまり、群れて遊べるほどの広さがあった。

私の原風景はこの庭である。

夏休み、栗の木の下の教室になった。私たちは朝食をすまずと、それぞれがりんご箱を運んできて、「夏休みの友」を「ページ、絵日記を「ページやるのが日課だった。この教室は子どもたちの自治で運営された。ある日、道路向こうの子が、仲間に入りたいと言ってきた。彼の仲間入りは困難をきわめた。後ろ盾がなかったのだ。子どもたちにとつての後盾とは、差し入れをしてくれる人だった。ゆであがったトウモロコシを、揚げたおかきを……どっさり。

今考えると、あの庭は、共同子育ての場だったのだ。干渉していないように、大人たちの手は、時々差し出されていたのだし、姿を見せていたのだ。子どもたちは、共同子育てに参加している大人を、しっかり意識していたことになる。その上子どもたちは、子育てへの大人の考え方も測っていた。差し入れる事が出来ない人の悲しみや、大盤振る舞いする大人の心の有り様を見抜いていた。

夏の庭には、朝早くから、水を張ったたらいやバケツが、いくつも並んでいた。私たちは、シャボン玉を飛ばし、水鉄砲や色水屋さんごっこで遊んだが、この水を使わなかったし、汚さないように注意した。この水が行水に使われることを知っているからだ。昼近く、井戸の周りには、盆ざるが並んだ。私たちは、決して盆ざるをひっくり返さなかった。盆ざるに広げられた冷えたご飯は、乾かしたら甘辛く味つけされ、おやつに提供されたし、カボチャの種も、お茶がらもおいしく変身して、自分たちの口に入ることを知っていたのだ。

私たちは缶けりをし、ハナイチモンメをし、チャンバラをした。おままごごとをし、ゴム飛びをし、泥棒ジャンケンをした。鶏が怯えて逃げまどうほどの勢いで走った。どんなにやんちゃをしても、大人たちは制止しなかった。

が、子どもたちが、庭で暴れない日があった。かんかん照りの日だ。おばあちゃんは、もんべにたすき掛け、姉さんがかりの母さんは、着物の裾をまくって、やる気の見える出で立ちだった。小さい布や大きい布が、工作の部品のよつにはり板に貼り付けられている。去年作ってもらった綿入り半纏も、布糊がつけられて、日の当たるところに立て掛けられる。しんしん針とめられた布団の側は、まるで波のように幾張りも、庭いっばいに張られていく。冬の準備がなされる庭は、日の当たるところが大人に占有された。

投稿コーナー

会員の皆様の心に残った一言をご紹介します(敬称は略します)。

●あいだみつお作品集より「おかげさん」
京都府 井原進 56歳
前略 MOH通信いつも楽しみに読ませていただいております。昨年二月キャリア交流プログラムの講演を機会に主人に送っていただいたのが縁で私も楽しく読んでおります。今…いろいろな事が起り、人間として大切なものは何かをMOH通信の中で学ばせていただいております。草々 井原(内)

●「しゃべるな、食べるな、ほしが
るな」余分なことはしゃべらな
い、腹八分目、必要なものだけ
るが
大津市 寺下弘 61歳
●平成7年1月の阪神淡路大
震災で学び得たこと「人は生か
されている」という一言でした。
これから人のお役に立てるこ
とをしないと考えています。N
POEE ネット様の紹介です。
貴会を訪問したく存じます。
神戸市 大島孝 75歳

●拝啓 MOH通信様 今日MO
H通信第7号を届けてくださ
いました。今回は高島市をとりあ
げてください、ありがとうございます。
新江州のすこいところ
は包装紙や業務用の紙を扱っ
ているにもかかわらず、環境社
会節約の社会、もったいないの
社会が進むと自社の事業がピン

●「循環型社会入門」読ませて
いただきました。現在の環境
問題を解決するためという狭い
視野ではなく…という経済至
上主義に警鐘を鳴らすご意見
に背筋が伸びた思いとともに、

●「循環型社会入門」読まし
た。新しい体制のためには、今を
破壊しなければならぬという
ご提言、そのとおりと思います。
違った流れを止めることなど
できないとすれば、森さんのおつ
しやる方法しかないようです。
長浜市 伊藤宏太郎

●ささき よついち 1940年生まれ。高校在学中より習作のため、長浜市
周辺の風景を数多く描く。1964年長浜市展特選受賞、以降受賞を重ねる。
滋賀県展特選4回受賞。西友長浜市などで個展数十回開催。現在、デザイ
ン・製版事務所代表。著作には「画文集」30年前の長浜がある。市内にて洋
画入門講座を開き、後進の指導にも尽力。長浜日曜画家協会創立より代表世
話役を務める。長浜市在住。



●いませきのぶ 1942年東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園
教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者
協会理事。
＜主な著書＞「小犬の裁判はじめます」1987 童心社 青少年読書感想文「ソク
ール課題図書」「さよならの日のねすみ花火」1995 国土社 青少年読書感
想文「ソクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財」「地雷の
村で「寺子屋」づくり」2003。PHP研究所 など多数



「こ精がでますね」「なんでも丹精すると、長持ちしますね」などと
いう会話を耳にしながら、私たち子どもは、夏の庭で、朝から晩まで大
人の暮らしぶりを見ていた。そして、物は単に物質ではなく、物と人の
関わり合いの中で生かされるのだと知ることになった。
夏の庭では、今はやりの総合学習が、自然の形で行われていたのだ。
とても良質な総合学習だった。

不公正をなくすために大量消費の抑制を!

共時性の環境倫理 ②

本田先生の環境倫理学講座 Part.8

本田 裕志

最初に前回の宿題を解決しましょう。「先進」諸国の大量生産・大量消費は、資源輸出国である「途上」国の経済を潤し、また一部の製品の物的援助を通じて「途上」国の発展に役立っている、というのは本当でしょうか。

■無理な資源生産が招く環境破壊

日本が主要な輸出国である東南アジアの熱帯木材を例にとりましょう。熱帯林では、輸出材として商品価値のある樹木はどこどこに点在するだけですが、それを輸入業者の求める低価格で売ってなおかつ利潤が残るように切り出すために、周囲のすべての樹木も犠牲にしてしまうコストの安い伐採方法が広く行われてきました。こういうやり方をするとう樹木は再生できず、熱帯林は失われて不毛の地になってしまいます。こうして熱帯木材のかつての主要輸出国は、次々に国土を被つていた森林の大部分を失い、その結果、しばしば大水害に襲われ、沿岸部の海洋生態系が土砂の流入によって痛めつけられ、森林やその周辺の住民が生活の場を失って都市のスラムに流れ込むなど、多くの問題に苦しめられています。これと似たことは、木材だけでなく、「途上」国から「先進」国に輸出される主要な資源のほとんどに関連して起こっています。すなわち「途上」国は、「先進」国の要求する価格と品質で資源を輸出するために、自国の自然環境に大きなダメージをもたらす無理なやり方で資源を生産・採取することを強いられてきたのです。

■「援助」のもたらすもの

「先進」国からの物的「援助」と言われるものも、その中心は、資源のこうした生産・採取を進めるのに必要な物資——森林を根こそぎ「開墾」して輸出入原料作物の農園にしたり、露天掘り鉱山を「開発」したりするための重機、そういう鉱山や農園で使用される機械類(ショベルやトラクター)と化学物質(精錬剤・農薬・化学肥料)、資源を運ぶ大型トラック、それが走る道路や資源積み出し港の「整備」のための建設資材、等々——であり、それによって進む「途上」国の「発展」あるいは「近代化」とは、その国独自の自然風土やそれに合った伝統的な生産・生活様式を一掃して、効率的な資源生産に都合のよい体制を作るこ

とでしかありません。しかも、こうして多くの資源輸出国で資源生産の効率化が進めば進むほど、資源の国際価格水準は低落し、これらの国々はこういう「発展」のために背負った負債を返済するだけのためにも、ますます自国の自然環境に負担をかけて資源生産の増加と効率化を進めなければならない、という悪循環に追い込まれてきたのです。

■言い逃れのできない共時的不公正の現実

消費生活と環境負荷の南北格差が環境破壊を通じて「先進」国と「途上」国との間に共時的不公正を生み出している、という認識に対する第二の反対論、すなわち「先進」国の大量生産・大量消費は「途上」国のためにもなっている、という主張は、嘘であることがわかりました。環境破壊の主要原因を「途上」国の人口増加に帰する第一の反対論は、すでに前回退けましたので、右の共時的不公正が現実存在することは、はっきり確認されたと言えるでしょう。私たち「先進」国民の大量消費生活は、現に地球上に生きて暮らしている多くの人々に、貧困や環境破壊や歪んだ「近代化」による苦境を無理やり押しつけることによって成り立っているのです。

■私たちに求められる消費の抑制

この不公正を解消するために、「途上」国の消費生活の水準を「先進」国の現状なみに向上させる、という選択肢はありません。そんなことをしたら、地球環境はたちまち壊滅してしまいうでしょう。可能な唯一の方法は「途上」国に消費・廃棄の拡大をある程度認めつつ、「先進」国の消費・廃棄を抑制し削減することです。では、どの程度まで削減が必要なのでしょう。

すでに世代間倫理の観点から、資源の消費と廃棄物の総量は、持続可能な水準を越えてはならないことがわかっています。これに加えて、さらに共時的公正をも実現するためには、それぞれの資源・廃棄物の持続可能な消費・排出量を地球総人口で割って得られた値に、一人当たりのその資源の消費量と廃棄物の排出量を抑えることが必要です。もう一度〇〇排出の例にもどって考えましょう。〇〇の持続可能な排出総量は、前々回(第六号)に述べたように、炭素換算値で年間二十億

本の紹介

最近入手した、気になる本をご紹介します。

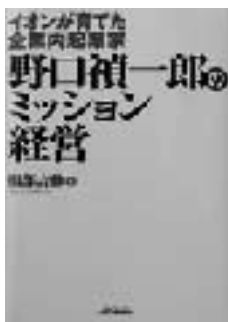
本

「そらと身を澄ませば」



- 著者／三宮麻由子
- 発行所／日本放送出版協会
- 価格／1500円＋税
- 内容／鳥のさえずりの隙間、燃え尽きた花火の中、傘越しの雨の感触にー 全盲の著者が案内する、見えないからこそ、感じることの出来る世界。第49回日本エッセイスト・クラブ賞受賞

「野口禎一郎のミッシェン経営」



- 著者／服部吉伸
- 発行所／日刊工業新聞社
- 価格／1400円＋税
- 内容／イオンの下、衣服、生活雑貨の販売を手掛ける企業「ブルーグラス」。ファッションを軸に、新たなライフスタイルを提唱するこのブルーグラスを創造した野口禎一郎氏の経営方法、人材育成方法を小説風に語る

「緑の国エトピア」

〈上・下巻〉



- 著者／アーネスト・カレンバック
- 訳／三輪妙子
- 発売元／ほんの木
- 価格／上巻1400円＋税 下巻1500円＋税
- 内容／地球環境・生態系を守るライフスタイルの実現、そのために誕生した新たな国家「エトピア」。緑の国の人々の暮らしはいかなるものなのか。

「金ではなく鉄と汗」



- 著者／中坊公平
- 発行所／岩波書店
- 価格／1400円＋税
- 内容／弁護士、中坊公平の自叙伝。勉強もスポーツも下手、その上病弱で人見知りだった少年時代から、「中坊公平の原形」が完成した瞬間ー森永ヒ素ミルク中毒裁判の終結までを語る

「三河のエジソン」



- 著者／今関信子
- 発行所／佼成出版社
- 価格／1500円＋税
- 内容／「障害はたいへんだけれど、楽しいこともある」右手のほとんどの指を失う重傷を負ったことで、自助具づくりを始めた発明家、加藤源重氏。失意の底から立ち上がり、障害と共に前向きに生きる加藤氏が「三河のエジソン」と呼ばれるまでに辿った道を発明品の写真数十点と共に辿る

トンまでと考えられています。現在の地球総人口は約六十四億人ですから、世代間の公正に加えて南北間の公正を実現できる一人当たりの年間炭素排出量の上限は、約〇・三二トンということになります。これに対して、主要「先進」国の現実の一人当たり年間炭素排出量は、前号でも紹介したように、すでに一九九〇年頃の時点で、アメリカは六トン弱、日本は二トン強という、べらぼうな量に達しています（ちなみに現時点では、両国ともこの数字をさらに上回っているとみられます）。これはつまり、平均的アメリカ人は〇〇の排出を現状の二十分の一、日本人は七分の一から八分の一で済ませるような消費水準で生活しなければ、右の上限に違反してしまうということです。

環境倫理の視点から見て、いわゆる「先進」国民の消費生活がいかに

本田 裕志

● ほんだ ひろし 薮谷大学文学部助教授（専攻 哲学・倫理学）

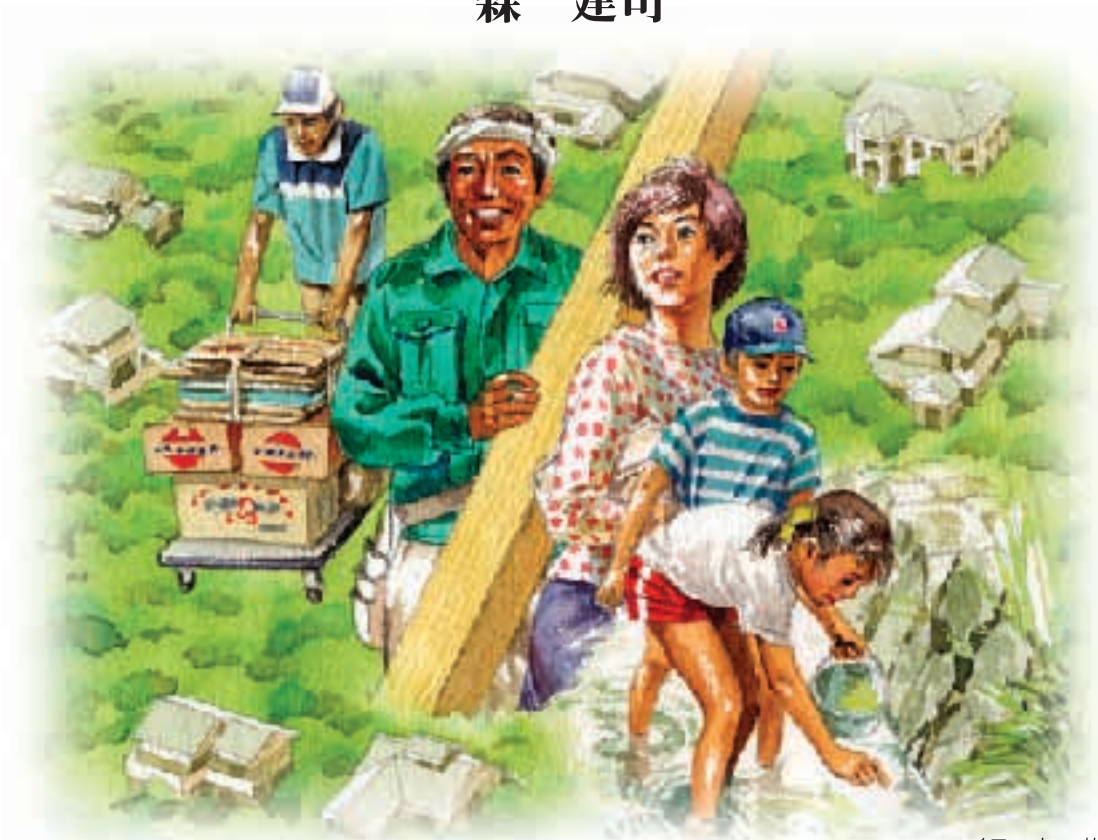
度外れなものであるか、これを倫理的に正当なレベルへと是正するため、いかに厳しい努力が待たなして私たちに要求されているかは、このたった二つの例を見ただけでも、明らかでしょう。けれどもこの場合の環境倫理は、まだ世代間倫理と共時倫理という、人間中心主義的視点しか含んでいません。環境倫理にはさらに反・人間中心主義的な視点に立つものもあって、それはいつそう徹底した厳しい主張を展開しています。今回のテーマは、この反・人間中心主義的環境倫理についてです。

循環型社会を支える基本理念

循環型社会入門⑤

2. エコライフを創るエコ村の条件

森 建司



イラスト：佐々木洋一

エコ村が循環型社会のひとつの実証の場として創られていくものであるからには、そのコミュニティを構成する人々の総意と、共通の価値観によって裏つけられた条件が整わなければならないはずだ。

抽象論的には、現在の経済至上主義を否定する事を主眼として「説を成す事も可能だが、具体像についてはそのコミュニティで生活しようという個々人の感性や、生き方から様々な異なった意見が寄せられて当然であり、同時にそれは立地する地理的条件や、入居希望者の世代によっても大きく違ってくるだろう。その個々の違いを認めつつも、理想とするエコ村のあり方に近づける妥協案としての、「それぞれのエコ村」の固有の条件設定が必要である事は言うまでもない。

ここに滋賀県の湖北地方においてエコ村を建設すべく「NPO 湖北エコ村デザイン協会」が策定中の「エコ村の条件」について、今日までの成果を協会事務局長の押谷友之氏に紹介して頂く。

◆NPO 法人 湖北エコ村デザイン協会事務局 押谷友之

「エコ村」とは文字通りエココンシャスな村＝コミュニティを創ろうとするもののだが、「湖北でもエコ村を創ろうよ」と声を上げたのは、やっぱり森さんである。湖北の中小の建設会社や大工さん、設計屋さん、土木屋さんなどが集まり、NPO 法人を立ち上げ、実現に向けた議論を開始した。

いざ研究を始めて知ったことは、「何をもってエコ村と称するか」という厚い壁であった。実のところ「エコ村」を定義するのは難しい。エコ効率を高めるためのコストが増大化し、そのことがエコ村普及の妨げとなるなら、エコ効率は高まらない。エコとコストのバランスが、エコ村の効率を最適化する。

そこで、エコ村基準とすべきキーワードを抽出し、概ね次のようなエッセンスを導きだしてみた。

①エコ村は人に優しくなければならぬ。つまり、ユニバーサルデザインが施されていること。生活環境（騒音、振動、大気汚染、日照障害、電波障害、公害からの解放）が良好であること。住宅はシックハウスなどとは無縁の自然素材が、建設材料の何%以上使用され、そのうち五十%以上に県内産材が活用されることとする。

②エコ村は美観に配慮されていなければならない。つまり統一感のあるデザインの街並みであること。塀は原則禁止し生垣を奨励する。無電柱、TVアンテナは共同とする。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。
2005年6月～2005年7月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 日 時:6月7日(火)
- 主催者:滋賀県小・中学校教頭会
- 目的:研修会
- テーマ:循環型社会における人づくり
- 場 所:琵琶湖ホテル
- 参加者:240名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、行き詰まった経済至上主義 2、自己矛盾の数々 3、循環型社会形成へのスタート 4、金儲け以外の「人生の志」 5、風紀の紊乱 6、当事者と未来派

- 日 時:7月2日(土)
- 主催者:長浜市PTA連絡協議会
- 目的:PTAフォーラム
- テーマ:教育の原点は何か～ライフスタイルが決める子どもの教育～
- 場 所:勤労者福祉会館「臨湖」
- 参加者:120名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、最近の世相 2、生きていく知恵、人として恥じない道、先祖から子孫へ 3、丁稚奉公、内弟子、親方から学べ 4、学校教育は教育の一端 5、それをどうやってするねん

- 日 時:7月3日(日)
- 主催者:田邊工業株式会社
- 目的:古民家再生塾
- テーマ:もったいないM おかげさまO ほどほどにH
- 場 所:高月町唐川・愛清荘公開
- 参加者:45名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、経済至上主義に貢献した半世紀 2、幸福論、価値観はものの豊かさに集中した 3、環境問題、教育問題、社会問題など課題がいっぱい 4、循環型社会の実証実験(エコ村) 5、地球の環境容量は満杯に近い

- 日 時:7月6日(水)
- 主催者:立命館大学経営学部
- 目的:水曜2時限環境ビジネス論講義
- テーマ:環境ビジネスの現場から～自分の哲学を変える事が先決
- 場 所:立命館大学びわこ・草津キャンパス
- 参加者:100名

- 演 者:森 建司
- 内 容:1、経済至上主義に貢献した半世紀 2、幸福論、価値論はものの豊かさに集中した 3、環境問題、教育問題、社会問題など課題がいっぱい 4、循環型社会の実証実験(エコ村) 5、地球の環境容量は満杯に近い

- 日 時:7月13日(水)
- 主催者:同志社大学経済学部末永國紀教授ゼミ
- 目的:3年生演習
- テーマ:自分の哲学をもつ(MOHがおしえるもの)
- 場 所:同志社大学今出川キャンパス
- 参加者:16名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、最近の世相 2、生きていく知恵、人として恥じない道、先祖から子孫へ 3、丁稚奉公、内弟子時代の人間修養 4、学校や企業の教育は教育の一端である 5、自分で考える

- 日 時:7月19日(火)
- 主催者:国際ソロプチミスト長浜
- 目的:7月例会
- テーマ:循環型社会とは～もったいない・おかげさま・ほどほどに～
- 場 所:北ビワコホテル住文グラッチェ
- 参加者:45名
- 演 者:森 建司
- 内 容:1、経済至上主義社会の基本理念 2、経済社会の競争原理 3、今日の問題点 4、これ以上「もの」がいるのか 5、最近のニュービジネス 6、私の「人生を決めた一言」は

- 日 時:7月29日(金)
- 主催者:野洲生活学校
- 目的:環境講演会
- テーマ:地球に優しい省エネ生活～循環型社会の暮らし～
- 場 所:コミュニティセンター・やす
- 参加者:33名
- 内 容:1、ゴミを減らす(入口論) 2、リサイクル(出口論) 3、地上資源を使う 4、地球の環境容量が満杯になる 5、「もったいない・おかげさま・ほどほどに」の意識を持つ以外に道なし

③エコ村は水循環システムが導入されていなければならない。雨水は箇所にあつめ、村の中を流れる川の源流とする。最下流で回収し、自然エネルギーを利用して源流に戻す。川は親水性を持つていなくてはならない。また、住宅の屋根は、村の共益費用を捻出するため、ソーラー発電の場所として提供される。

④エコ村は豊かな緑が形成されていなければならない。街路樹、大径木のある公園があること。住宅地の緑ではなく、緑地の中の住宅をイメージ。

⑤エコ村はゼロエミッションシステムが導入されていなければならない。エコ村からは廃棄物を出さない。廃棄物が村から出るときは有価物となっている。たとえば生ゴミは堆肥化され、金属類は素材別に分別され破砕されている。プラスチック類はインゴットに、紙類は…などなど。

これらが整ったところであるなら、そのコミュニティを「エコ村」と称していいのではないかと、どこまで議論は進んでいるか、いや、まだ議論が足りないんじゃないかと、の声もなくなはないのだ。

森 建司

もり けんじ ●1993年、滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会副会長、滋賀県教育委員会委員など
著書「吃音はなめる」遊タイム出版「循環型社会入門」新風舎

「人間学」を学ぼう

その2

井上 昌幸



今回はどのような人物を目指すべきか古今東西の文献から何かヒントを掴んでみませんか？ 中国古典の「莊子」に書かれている「木鶏」や萩原井泉水の「豆腐」などは充分味読する価値のある内容だと思います。

一 木鶏

紀渚子という人が闘鶏の好きな王のために軍鶏を養って調教訓練しておりました。そして十日ほど経った頃、王が「もうよいか」と聞きましたところが、紀渚子は、「いや、まだいけません、空威張りして『俺が』というところがあります」と答えました。さらに十日経つて、また聞きました。「まだだめです。相手の姿を見たり声を聞いたりすると昂奮するところがありません」。また十日経つて聞きました。「まだいけません。相手を見ると睨みつけて、圧倒しようとするところがあります。こうしてさらに十日経つて聞きました。

そうすると初めて「まあ、どうにかよろしいでしょう。他の鶏の声がしても少しも平生と変わるところがありません。その姿はまるで木彫の鶏のようです。全く徳が充実しました。もうどんな鶏を連れてきても、これに敵戦するものがなく、姿を見ただけで逃げてしまうでしょう」と言いました。

この話は鶏を例にしてどのようにして人物を練り上げるかについて説明しています。名横綱双葉山がまだ若かった頃、安岡先生が「木鶏」の話をされて、双葉山は大変喜んで先生に「木鶏」の字を書いてもらい、朝に静座して木鶏の工夫をしたそうです。

双葉山は子供の頃に吹き矢が眼にささって怪我をして、見たところはわからないが片目は全く見えなかったそうです。相撲の立会いでは距離感が重要なのですが、双葉山は練習を積み重ね、精神面を充実させ誰にも気づかせないようにしていたそうです。

第二次大戦の直前に安岡先生が船でヨーロッパの旅に出かけていた時に、双葉山から「イマダモクケイニオヨバズ」と書かれた電報が届き、双葉山が七十連勝できなかったことを伝えてきて、そのことが船中で話題になったそうです。

その後、「木鶏」という言葉が広がり、現在では各地に「木鶏クラブ」ができています。（安岡正篤先生著「人物を修める」を参照）

二 豆腐

萩原井泉水

豆腐ほど良く出来た漢はあるまい。彼は一見、佛頂面をしているけれども決してカンカン頭の木念人ではなく、軟かさの点では申し分がない。しかも、身を解さぬだけのしまりはもっている。煮ても焼いても食えぬ奴と云う言葉とは反対に、煮てもよろしく、焼いてもよろしく、汁にしても、あんをかけても、又は沸きたぎる油で揚げて、寒天の空に凍らしても、それぞれの味を出すのだから面白い。又、豆腐ほど相手を嫌わぬ者はない。チリの鍋に入つては鯛と同座して恥じない。スキの鍋に入つては鶏と相交つて相和する。ノッペイ汁としては大根や芋と好き友人であり、更におでんに於ては蒟蒻や竹輪と協調を保つ。されば正月の重箱の中にも顔を出さずし、佛事のお皿にも一役を承らすには居ない。

彼は實に融通がきく、自然に凡てに順應する。蓋し、彼が偏執的な小我を持たずして、いわば無我の境地に到り得て居るからである。金剛經に、「應無所住而生其心」（応に住する所無くして其の心を生ず）とある。これが自分の境地だと腰を据えておさまる心がなくして、與へられたる所に従つて生き、しかあるがままの時に即して振舞う。此の自然にして自由なるもの姿、これが豆腐なのである。

尚、「豆腐の如く」の中には次のような言葉が続くように書かれている。豆腐には、悟りきった達人の面影がある。それは、厳しい環境の中で心身ともに鍛えられる禅の修行のように、重い石臼の下をくぐり、細かい袋の目を濾してさんさん苦労して来たからだ。私たちなど、その豆腐にくらべればまったくおよびもつかない。そんなことを、私は夕飯の湯豆腐の鍋の前でしみじみと思い、また豆腐に教えられる。

「豆腐」と私の出会いについて述べてみたいと思います。

私は三十年前に彦根市にある龍潭寺で坐禅を始めました。坐禅を指導して下さった方は長浜市の多田幸寺住職で臨済宗妙心寺派の布教師をされていた中島義観師でした。中島先生はお話が上手でいろいろ聞かせていただきましたが、その中で「豆腐」を擬人化した話の内容は私にとって強烈な印象となり、いつかあの内容が書かれた本を買ってじっくり勉強したいと思いました。

平成七年に京都駅横のアバンティで斎藤茂太著「豆腐のごとく」を買った。その内容を見ると、ブログにあの「豆腐」のエッセイが書かれていました。そして萩原井泉水のエッセイであることがわかりました。これこそ

M・O・Hニュース

龍谷大学瀬田キャンパスのRECコミュニティカレッジで「循環型社会における生活とビジネス～M・O・Hの精神を未来に生かす～」講座が開講。参加者募集中

この講座は自然環境と調和した循環型社会の構築という目的に向けて、私たち一人ひとりに何が出来るかを考える講座です。環境倫理の確立のキーワードは「循環」「共生」「抑制」です。言い換えれば「もったいない(M)」「おかげさま(O)」「ほどほどに(H)」という日本古来の庶民生活の精神に相当します。これを循環型社会の確立のために生かそうと活動しているのが地元滋賀県を本拠とする「M・O・Hの会」です。この講座ではメンバーである有識者や企業家が、それぞれの視点に立って自然と暮らしを未来につなぐためのメッセージを伝えます。

いずれの講座も木曜日、時間は15:10～16:40。問い合わせは龍谷大学REC事務局(京都) ☎075-645-7892まで。講座日程は次のとおり。ふるってご参加ください。

- ① 10月6日「循環型社会への変革と環境倫理学」本田裕志
- ② 10月27日「自分を変えよう—調和型人間になるために」井上昌幸
- ③ 11月17日「暮らしの中で環境を学ぶ—子どもと共に」今関信子
- ④ 12月8日「循環型社会の経営理念」末永國紀
- ⑤ 1月19日「真の循環型社会とその実現の道筋」内藤正明
- ⑥ 2月16日「循環型社会における新しいビジネスモデルの提案」森建司

持続可能な地域づくり—その考え方と具体的な手順—

KIESS設立5周年記念シンポジウムを9月9日開催

持続可能社会づくりを目指そうという動きが各地で見られるようになって来ました。しかし、その真の姿はまだ明らかではないようです。そこで①なぜ持続可能社会を目指すのかという「背景」②持続可能社会の「理念や方向」③具体的な「手順と課題」を主題としました。各地の先進事例紹介と英・米・独・印の専門家から、ハード(技術)、ソフト(社会)、ハート(倫理)の議論をいただきます。ゲストコメンテーターに小説「エコトピア」著者アーネスト・カレンバック氏が来日します。

- ・開催日時／9月9日(金) 10:00～17:00
- ・場所／滋賀県びわ湖大津館(旧琵琶湖ホテル)
- ・参加費／一般3,500円
- ・問い合わせ／NPO法人循環共生社会システム研究所 ☎075-752-1133

第33回青年経営者全国交流会in滋賀で末永教授が講演

先達の教え「三方よし」から未来を拓く

中小企業家同友会全国協議会の主催で、未来へはばたく青年経営者よ、情熱を持って地域と共に!をテーマとした、第33回青年経営者全国交流会が9月15日(木)16日(金)に大津市プリンスホテルと琵琶湖ホテルで行われる。16日のパネルディスカッションには同志社大学経済学部の末永教授や滋賀ダイハツ販売の後藤社長、尾賀亀の尾賀社長が登壇。参加費用は19,000円。問い合わせは事務局 ☎077-561-5333滋賀県中小企業家同友会まで。

「もったいない」をブランドに伊藤忠商事が商品販売事業に乗り出す

7月27日中日新聞記事より

合言葉は「もったいない」伊藤忠商事は26日、ノーベル平和賞受賞者でケニア副環境相、ワンガリ・マータイさんが提唱する「もったいない」をブランドにして商品販売する事業を始めると発表した。収益の一部はマータイさんが創設した「NGOグリーンベルト運動」に寄付される。消費者や企業が買い物を通じて環境保護に参加できる。植林を表す緑の葉っぱに「MOTTAINAI」とローマ字で書いたロゴマーク。Tシャツや布バッグ、食器に印刷して販売。伊藤忠商事は商品開発や販売、他企業へのライセンス提供を担当。2006年2月販売予定。

学びの場を提供する私設「樂修院大学」

里山を散策するエコウォーキング開催

滋賀県守山市にある〈ループプランニング〉の樂修院大学では、ユニークな教室を開催している。自然を体感するエコウォーキング、誰でも書ける自分史講座、リラクゼーション音楽療法など。滋賀県守山市駅前平和堂守山店4階にて開催。興味のある方はご一報を。〈ループプランニング〉 ☎077-514-2678。

私の求めていた生き方であり、少しでも近づきたいと、いつも手帳に挟んで持ち歩いています。特に「應無所住而生其心」(應に住む所無くして其の心を生ず)の言葉がよく、その意味は「これが自分の境地だと腰を据えておさまる心がなくして、與へられたる所に従って生き、しかあがるがままの時に即して振る舞ふ。此の自然にして自由なるものの姿、これが豆腐なのである。」と書かれています。どのような環境に置かれてもこのような心境になれるように自分自身を鍛えたいと思っておりますが、果たしてどこまで近づけるのか。皆さんもこの文章をじっくりと味わってみたいと思います。

前回は述べましたが、私たちの日常生活の中では、多くの出会いがあります。

しかし何も気づかずに見過ぎてしまっていることが多いのではないかと思います。「気づく」↓「意識する」↓「行動する」↓「習慣化する」努力を惜しまないようにしましょう。そうすれば月日が経つにつれて自らの行動に変化が顕われるはずです。

井上昌幸

●いのちえ まさゆき 1940年1月1日生まれ。2000年日本電気硝子(株)定年退職。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21(滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組合)専務理事、滋賀県技術アドバイザー、大津木鶏クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人
資格/ISO14000&9000審査員補

「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」の
発足に当たって

代表 森建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消去しようとするものである。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。

この実現のために「循環型社会を目指す～M・O・Hの会～」を設立する。

《次号予告》

2005年10月末発行予定

トップレクチャー：「循環型社会のモデルを探る」循環共生社会研究所 代表 内藤 正明氏

鼎談：「中小企業が生き残るには」中小企業家同友会 赤石会長＋同志社大学経済学部 末永教授＋循環型社会システム研究所 森代表

連載：作家 今関 信子氏

連載：龍谷大学 助教授 本田 裕志氏

連載：循環型社会システム 代表 森建司氏

連載：井上 昌幸氏

挿絵：佐々木 洋一氏

漫画：オノ ミユキ氏

写真：辻村 耕司氏

《編集後記》

■龍谷大学RECコミュニティカレッジが始まります。循環型社会への道筋がわかりやすく学べます。ぜひ受講してください。女性のサファルを作ろうかと考えます。牛の次は山羊です。紙(情報)を糞とし、地平線を見渡せる広い視野を持ち人様のお役に立てるよう、めー(ME)と命名しました。Mもったいない、Eもええかげん。「ええ加減にしろ」とお叱りをつけるかも……琴

■猛烈な暑さが続きます。省エネについていろいろと理屈を述べているにしろ、エアコンなしには過ごしにくいというのが本音。この暑さの中でも戸外で仕事をしている方、高校野球を始めスポーツにがんばっている皆さん本当に「暑男様」です。そのことを思えば「ガンガン」。省エネでエアコンを止めて大汗をかいて、それでダイエットが出来れば正しく「一石二鳥だ!」……建

もったいない
おかげさま
ほどほどに
「循環型社会入門」発売



お待たせしました。「循環型社会入門」が上梓されました。世界の共通語となる“もったいない・おかげさま・ほどほどに”の提唱者である森建司の力作です。

循環型社会の運動は革命的転換を意味している。経済によってのみ生かされているという価値観からの脱出を図り、新しい価値観をもった循環型社会をつくるためには、「破壊と創造」の行動を起こすときが来た。本書がそのきっかけになれば幸いです——あとがきから(要約)

お近くの書店でオーダーをお願いします。

著者／森建司 ● 出版社／新風舎 ● 価格／1200円(税別)

《M・O・H通信》購読受付中!

あなたも「M・O・H通信」を購読なさいませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》購読申込書

フリガナ		年齢	
お名前			
住所	〒		
電話		FAX	
メールアドレス			
希望口数	1口=3,000円		
あなたの心に残った一言を書いてください。			

*記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

M・O・H通信 Vol.8(通巻9号)

2005年8月31日発行

●編集・発行/循環型社会システム研究所 M・O・Hの会

M・O・H 通信事務局

循環型社会システム研究所(新江州(株)内)

代表 森建司

編集長・取材 ツジムラ コトミ

編集協力 稲垣 重雄

村山 明子

細井 美保

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

印刷 (株)ワキプリントピア

〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

email: tsujimura@shingosho.co.jp

[購読費振込先]

M・O・Hの会 代表 森建司

●滋賀銀行 長浜支店 普通 136987(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

●長浜信用金庫 本店 普通 0577468(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

●びわこ銀行 長浜支店 普通 721691(モウノカイ ダイヒョウ モリケンジ)

*記事中で写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。